

＝ 平成30年7月豪雨：被災地、被災者へのご支援を ＝

みなさん、ご安全に。

九州から降り始めた大雨は、中国、四国、近畿・中部と降り続き、未曾有の豪雨となって大きな爪痕を残していきました。

全てを津波が持ち去った3.11東日本大震災、熊本地震の山が崩れ家屋が潰れたあの光景にも似た姿をまたも目にしようとは…。今回の豪雨、多くの命を奪い、住み慣れた家屋を流し、道路も畑も田んぼも、いたる所を泥で埋め尽くし破壊していきました。心からのお見舞いと哀悼の意を捧げます。

基幹労連は、7月11日に「平成30年7月豪雨」と命名された大水害に対し、基幹労連中央災害対策本部を設置しました。昨日、私は特に被害のひどい広島、岡山の現地に飛びました。

両県本部の委員長、事務局長他、関係組織の役員の方々に被災状況を伺うとともに、厳しい時こそ労働組合の底力を発揮する時、互いに連携を取り合いしっかり対処していきましょうと激励しましたが、むしろ、現地の皆さんの士気はそれ以上のものでした。

岡山県本部を後にし、最大の被災地域である倉敷市真備町に立ち寄りました。自衛隊、消防、警察の皆さんが汗だくになりながら不明者の捜索や交通整理を続け、うだるような暑さの中で、泥まみれになって家屋の片付けをする住民の方々の姿に、ただ言葉もなく頭が下がるだけでした。

道路の脇に積み上げられた泥にまみれた家電・家具、二階の窓まで達したであろう汚泥の後の残った家屋の壁や窓、その状況を共有しようと思いましたがカメラのシャッターを切ることはできませんでした。

6年前の九州北部豪雨にボランティアの一人として参加しましたが、その時に、「皆さんお疲れ様です」と自らを奮い立たせ、朝から懸命に汗を流しながら片付けをするおばあさんの口から、ふと「もう、心が折れた…」今も、耳に残っています。

私たち労働組合は、一人ではできないことでも、心を合わせ、力を合わせることで乗り越えることを誰よりも知っています。声にならない悲痛な思いは計り知れませんが、折れかけている仲間の心を皆で支えることはできるはず。「組合員とその家族の幸せ追求」は、仲間とともに作りあげるもの。

基幹労連はまもなく、JBUパワーバンクの出動と救援カンパを実施します。仲間の笑顔を取り戻すまで、如何に暑かろうと、長丁場になろうとも、相手を思い、互いに手を差し伸べながら取り組んでまいります。

全ての組織と基幹労連266,000組合員の方のご協力を心からお願いいたします。

2018年7月13日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一